

高千穂遙の

自転車徒然草

つれづれぐさ

広告はとても便利である。 理想のインソールを求めて

雑誌の広告が好きだ。わたしは記事もしっかりと読みこむんだけど、広告もすべて目を通すようにしている。わたしにとっては、広告もまた、ひとつの記事なのだ。

自転車雑誌の広告も、もちろん残らず読む。商品も全部確認するし、価格もチェックする。こういうのも貴重な情報だ。

そういった広告の中で、すごく気になっていたのが、「足道楽」の広告だ。オーダーインソールのシヨップである。本誌の12月号にも掲載されていた。

インソールには苦労している。以前、ITSウェッジというインソールの補助パーツのようなものを導入した話を書いた。あれは、かなりよかったが、残念なことに、理想的な状態にはなってくれなかった。ひざの感触がいまひとつのままであった。

インソールは、いろいろなものを使ってきた。カスタムもいくつかつくった。どれも、ちょっと使用するぶんにはすごくいい

フィット感は良くなった。でもロスは変わりません」

これまでと異なる 斬新なコンセプトだ！

なるほどである。思いあたることがある。たしかに、いままで買ってきたインソールは、すべて足型をカスタムするものばかりだ。足が内側に傾いていてまっすぐに立つことができないから、インソールの内側を厚くして、擬似的にまっすぐ踏めるようにする……といった意味でのカスタムインソールだった。だが、これでは、ひざや腰の歪みはとれていないから、運動しているうちにそのずれが関節に影響を及ぼして、痛みがでてくる。見た目はまっすぐでも、肉体としては、ぜんぜんまっすぐになっていないのである。

このインソールの考え方はおもしろい。十分に一理ある。そう判断し、わたしは足道楽の立川店を予約した。

足道楽のカスタムインソールは、ベースがスーパーフィートだった。

スーパーフィートは、けっこうポピュラーなインソールである。わたしも当然、試したことがあった。カスタムではなく、購入したインソールをそのままシューズに突っこむ汎用タイプだ。結果は、アウト。効果についてはこれまでに使ってきたインソールと大差なかった。シューズ付属のインソールよりはまし

だが、長く乗っているとひざに違和感がでてくる。そういう商品だった。

だが、このカスタムタイプはまったく異なっていた。かかとの角度を矯正し、足全体の踏む角度を変えてしまうというコンセプトでインソールが整形される。足裏の厚みや角度はいい感じにいいじゃない。

丁寧な測定を経て、独特の型どり法により、1時間弱でインソールが完成した。さっそく、その新しいインソールで50kmほど走っ

てみた。結果は良好である。ひざの違和感がでなかった。その後も何度か走り、わたしは4週間後に再び立川に向かった。ローラー台で用いているシューズ用に同じインソールをもうひとつつくるためだ。

実際の話、結論はまだでない。正直、もう少し走りこまないとなんとも言えない。でも、今度のインソールはかなりいい感じである。インソール遍歴は、これで打ち止めになってほしいなあ。切に願っている。



イラスト/内山良治

たかちほ・はるか 「クラッシャージョウ」「ダーティベア」などの人気シリーズを世に送り出したSF作家。競輪や自転車への造詣も深いサイクリストとしても知られている。自転車関係の著書に日本初のヒルクライム小説で、まえばし赤城山ヒルクライム大会のもとになった「ヒルクライマー」（小学館）、KEIRINグランプリをテーマにした小説「グランプリ」（早川書房）などがある。